

下鴨少年補導委員会
松ヶ崎支部

発行責任者
支部長 北川 憲一

松ヶ崎少年補導だより

子どものかかわり方

京都市立松ヶ崎小学校校長
高向 健次

ともに、高学年児童への尊敬の念を抱くこととなります。

下鴨少年補導委員会松ヶ崎支部（以下、少年補導委員会）の皆様方には、日頃より子どもたちの非行防止・健全育成にご尽力くださりましてありがとうございます。

七月二十三日には「飯盒炊さんとヨーヨーつりの会」を開催していただき、子どもたちを大いに楽しませていただきました。おいしいカレーライスもいただきました。きつと参加した子どもたちは「夏休みの思い出アルバム」の第一ページを飾ることができたことと思います。この会の運営を拝見して感心したことがあります。それは、高学年児童から募ったキッズスタッフが、少年補導委員会やPTAの皆様方の指導のもと、カレーライスづくりを手伝うという

ものですが、このとき全てをお膳立てしてもらったのではなく、自らも運営に参画するということになります。参画した高学年児童はお世話になった方々と街で出会ったときにも挨拶ができる関係が作れたこととでしよう。調理の仕方をマスターし、さらには参画する喜びを味わい責任感がわいてくることで、自ずと高学年としての自覚が生まれます。一方、低・中学年児童は「高学年になればあんなことができると憧れるのだ」という憧れの気持ち

「子育て四訓」

乳児はしつかり肌を離すな
幼児は肌を離せ 手を離すな
少年は手を離せ 目を離すな
青年は目を離せ 心を離すな

少年補導委員会主催のこの会で拝見したキッズスタッフという発達段階を考慮した参画方式から、右のような言葉の思い出しました。最近よく目にするようになってきました。これは山口県教育関係者が長年の教育経験をふまえてまとめられた言葉で、「子育て四訓」と呼ばれています。

乳児はしつかり肌を離すな

胎児期には、母親とへその緒でつながり羊水の中で守られていきます。ところが、出生によって赤ちゃんは外界にさらされ不安になります。その心の安定を保つためにも、しつかりと肌を触れ合わせることで大切だということになります。母親の胸にしつかりと抱かれることによって、赤ちゃんは「守られている」「かわいがられている」と無意識のうちに感じて安心するので。愛情を感じ、情緒的

安定や他人を思いやる心などといった人間形成の基盤にもなっています。

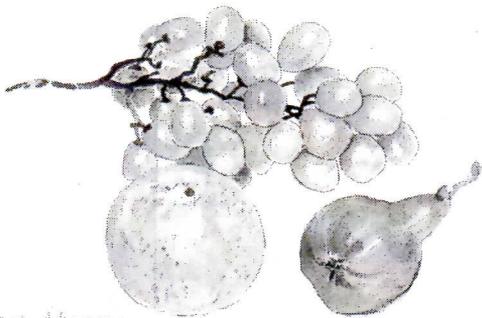
幼児は肌を離せ 手を離すな
幼児は乳離れをします。だからといって一気に離すのではなく、常に親がそばにいて安心感を与える必要があります。自立に目覚めはじめる幼児期は、完全な保護から小さな社会へ一歩を踏み出す時期だと言えます。残念なことですが、最近では「子どもの自立」という名のもと、一気に手を離して自分で産んだ子どもとの絆を自ら軽んじる親もあるように聞きます。

少年は手を離せ 目を離すな
少年期は友達との付き合いによって社会性が育つ時期です。ここでは手を離して活動範囲を広げてやらないといけません。ただし、様々な危険があるため、目を離してはいけません。安易に携帯電話を買い与え、親の知らぬ間によからぬサイトに入って問題に巻き込まれてしまうということも少なくないようです。

ただし、この時期は子どもが親に反抗したり、非行や問題行動に走ったり、いろんなことで思い悩むことがあるかもしれません。しかし、それは成長の過程です。親として逃げることなく、子どもと向き合って共に成長することを心掛けるべきではないでしょうか。子どもの「荒れ」の背景には、親やまわりの大人に「こつちを向いて！」という信号を発していることも多いようです。

青年は目を離せ 心を離すな
青年期は自分なりの生き甲斐を見出し、完全に自立していくために自らの進路を歩んでいくときです。しかし、気持ちの上では心を離してはいけないということです。子育ての最終的な責任は親にあります。子どもとの心の絆を大切に持ち続けたいものです。

このように、「子育て四訓」は、子どもの発達段階に応じた親（大人）のかかわり方として実に当を得たものです。子育てのためにも非行防止・健全育成のためにも参考になるのではないのでしょうか。しかし、頭の中では分かっているも親として子育てで悩み苦しむことはあります。地域社会としては子どもに目を向けるだけではなく、このように悩み苦しむ親たちを支援することも大事であることを付け足しておきます。



正田町 S.S.さん

さしのべる 手のぬくもりを どの子にも

少年非行の原因・背景

京都府下鴨警察署生活安全課少年係長

小田 昌 範

下鴨警察署少年係の小田です。

下鴨少年補導委員会松ヶ崎支部の皆様におかれましては常日頃から少年非行防止活動にご尽力いただき、また下鴨警察署の活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

松ヶ崎地域には北山通に代表されるきれいな町並み、宝ヶ池等の豊かな自然、数々の重要な国際会議が開催される国際会館などがあり、松ヶ崎地域のよいところは枚挙にいとまがありません。

松ヶ崎地域の子ども達にあっては私が知るところ、素直な子達ばかりです。これもひとえに松ヶ崎地域の皆様並びに少年補導委員会の皆様のご活躍のおかげと感謝しています。

さて、最近の少年非行の原因ですが、少年が自分の感情を上手くコントロールできない、あるいは社会のルールを守るといふ規範意識が身につけていないことなどの指摘がなされています。

まず家庭において、親子のふれあいの機会をできるだけ持ち、善悪の区別や社会のルールを守るこ

となどについて、幼児期から親がしっかりととしたしつけを行うことが大切です。

最近、地域社会が他人の子どもに無関心であるといわれています。かつては、地域の大人たちが悪いことをする子どもにその場で注意することなどで、子どもたちが規範意識を身につけていったという面がありました。地域社会全体で子どもをあたたかい目で見守り、時には「悪いことは悪い」と周りの大人がきちんと注意することも大切です。

どうか下鴨少年補導委員会松ヶ崎支部の皆様におかれましては、地域の少年少女に対し愛情を持って接していただき、将来を担う少年の健全育成に努めていただきたいと思います。

最後になりましたが、皆様のご健勝と御多幸、ご活躍を祈念して、挨拶とさせていただきます。

マイコーナー 窓

被災地ボランティアで 東北へ行って来ました

今海道町

半井 達 弥

私が参加したのは、京都災害ボランティアセンターのボランティアバスで被災地へ行き、瓦礫を撤去するという比較的シンプルなボランティアです。

皆さんもニュースなどで被災地の光景を見られたことがあると思いますが、基礎だけを残し、そこにあつたであろう木造の建物の残骸は津波で解体されてバラバラ、コンクリートの建物だけが形を残しています。窓などの開口部から津波が押し寄せて中はぐしゃぐしゃ、町全体が見るも無惨に解体された状態は言葉で表せるものではありません。

そのような中で、我々ボランティアは、田んぼの瓦礫の撤去や浸水した家屋の片づけの作業を二日間行のですが、人の力も結果すると大きな力になり、作業する前には人力では到底無理と思うことも、文字どおり皆で力を合わせると、大きく重いものでも動かせるなど、結構な成果を上げられることを体験しました。

あるお宅の片づけに伺ったとき、

家主さんからお話を聞く機会がありました。

その地区は八十人ほどの集落ですが、約一年前に津波の想定を見直した避難訓練をしており、地震の発生後、直ちに訓練どおり全員で高台に避難したため、人的被害はなかったとのことでした。事前の備え、訓練が実を結んだ実例です。

その方は、「津波で多くのものを失ったが、今まで知らなかった大きなことを知ることができた。それは人の温かさだ。」と遠方から来た我々に感謝され、必ず復興するので、今度は是非、観光で遊びに来て欲しいと言われました。

我々のようなボランティアの活動は、一つひとつは小さいけれど、一人ひとりが関心を持ち続けることが何かにつながり、それが被災地の方々の再スタートの後押しになればと願って行っています。皆さまも東日本大震災を記憶に留め、関心を持ち続けていただきますようお願いいたします。

平成二十三年度

非行防止標語

優秀作品

支部長賞

あいさつは

みんなの顔を 笑顔にする

六二二 村 田 理 子

小学校長賞

あいさつは

心をつなぐ パスワード

五一一 楊 萌 生

PTA会長賞

だいじょうぶ?

その思いやり わすれずに

六一一 青 木 由 紀

佳作

一言で

気持ちが変わる ありがとう

六一一 山 田 菜 緒

なにごと

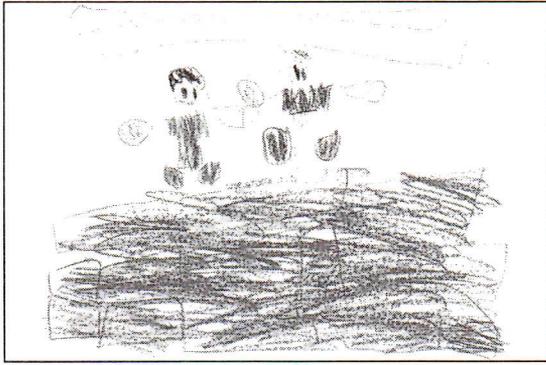
あゆんでいこう 一歩ずつ

六一二 山 田 さ や

たくさんの

笑顔いっぱい 広げよう

五二二 高 橋 杏



		す	よ	の	う	お	け	ん	は	ワがつ23 にち すずき たいせい ようび
		く	う	し	え	い	れ	か	ん	
		え	つ	し	う	し	り	あ	ご	
		ま	り	て	つ	か	ら	り	う	
		し	は	す	り	っ	い	ま	す	
		た	こ	い	た	よ	か	た	ま	

松ヶ崎小学校 一年一組 すずき たいせい

		や	の	か	う	ん	か	つ	ん	は	ワがつ23 にち むかい そう
		う	ご	よ	た	だ	い	と	が	ん	
		ア	む	う	そ	い	く	し	あ	あ	
		い	む	よ	れ	み	ん	く	ま	つ	
		た	す	う	と	た	が	ん	か	た	
		を	り	ま	ま	い	き	と	ち	い	

松ヶ崎小学校 一年一組 むかい そう

支部活動 状況報告

前号に引続き、当支部のその後の活動状況につき、ご報告いたします。

1 三月二十日 松ヶ崎少年補導だより第五十二号を発刊し、三、〇〇〇部を印刷、市政協力委員さん、隣組長さん方のご協力により、全世帯、関係機関に配布いたしました。

2 四月八日 支部三役会

平成二十三年度当支部の総会の議案、実施日時、年間行事等について協議いたしました。

3 五月十三日 支部定期総会

平成二十二年年度決算、監査報告、事業報告、平成二十三年度予算案、事業計画案について審議し、満場一致にて決定。

4 六月二十三日 支部役員会

七月に実施予定の行事の分担、飯盒炊さんとヨーヨーつりの会について、実施日時、参加人数の推定、材料等の調達の手配について協議いたしました。

5 七月三日 第三十三回少年を明るく育てる京都大会

円山音楽堂での式典の後、市役所までパレード致しました。

6 七月九日 第六十一回社会を明るくする運動地域集会

保護司会等関係各団体と共催。

京都府警察本部生活案全部少年サポートセンター所長補佐・京都市教育委員会生徒指導課主任指導主事 岡田敏之先生の「子どもの規範意識を育てるために」少年非行の現状から見えてくるもの」と題する講演を拝聴いたしました。

7 七月二十三日 飯盒炊さんとヨーヨーつりの会

キッズ・スタッフとして各コーナーで児童にお手伝いして頂き、楽しい一日となりました。

8 七月二十三日 いじめ、非行防止標語選考会

松ヶ崎小学校の先生方のご協力により、高学年の児童より応募のあつた標語三百首位より、優秀作品六首を選びました。その作品は二頁目に掲載してありますのでご覧下さい。

9 八月二十七日 松ヶ崎自治連合会主催の「夏まつり」に協賛参加

売店のお手伝いをしながら、各自で子供達を見守りました。

10 九月十二日 松ヶ崎少年補導だより第五十三号編集会議

原稿の作成、寄稿原稿の点検、紙面の構成、配置などの作業を行いました。

11 九月二十日 松ヶ崎少年補導だより第五十三号編集委員会

文字の校正や誌面のレイアウトにつき、手直しいたしました。

〈青色回転灯パトロール〉

学区内で偶数月の一日(土・日)の場合は翌日)に実施します。

〈古紙回収〉

毎月第四金曜日に行っています。

以上ご報告申し上げます。

支部長 北川 憲一

